

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月7日

【評価実施概要】

事業所番号	1270500521
法人名	有限会社暮らしの里
事業所名	グループホーム暮らしの里
所在地	千葉県千葉市緑区大膳野町4-41 (電話) 043-300-0370

評価機関名	特定非営利法人コミュニケケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年3月24日	評価確定日	5月13日

【情報提供票より】(21年3月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 3月1日	ユニット数	2ユニット	利用者定員	18人
1階ユニット	常勤兼務2名	非常勤25名	常勤換算4.9名		
2階ユニット	常勤兼務1名	非常勤25名	常勤換算4.5名		

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2階建て	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円			
敷金	有(150,000 円)			
その他の経費(月額)	光熱水費はホーム全体の7割を入居者数で割った分を負担 おむつ代等は実費			
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	0 円
1日当たり1,500円 / 1ヶ月当たり45,000円				

(4) 利用者の概要(3月7日現在)

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名
要介護1	3名	要介護2	5名		
要介護3	6名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	75歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おぐらクリニック 幸有会記念病院 小倉歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医師であるオーナーと医療現場の就労経験がある管理者が連携し、介護と看護の視点で運営している。「おかあさん(管理者)」のもと、入居者はもとより入居者家族や職員もひとつの家族と考えている、あたたかい雰囲気の家的なホームである。JR外房線誉田駅から徒歩15分で、ホームの周りには畑と閑静な住宅があり、子どもたちがホームの近くで遊んでいる姿も見受けられた。職員は近隣から来ており、地域情報の収集が容易で、地域特性も理解した運営がなされている。また職員の定着率が高いのも、入居者や家族にとって安心できる要素である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で上げられた改善課題であった職員を育てる取り組みについては、ホームの状況に合わせて職員のレベルに応じた育成を現場で行っている。中長期的な改善課題が多い中で、ホームの状況に合わせて少しずつではあるが前向きに取り組んでいる。今後は優先順位を明らかにし、計画的に取り組む事が更に良い改善活動になると思われる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者とユニットリーダーが中心に自己評価を行っている。職員の意見は随時聞いているが、自己評価にあたり時間を取って職員が参加する状況になかった。前回の全ての改善項目を計画的に改善、実施するまでには至っていない状況である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議参加者との意見交換を重視した運営を行っている。しかし計画的な会議開催が実施されていないため、入居者家族や参加予定者の都合がつかない状況も見受けられた。運営推進会議の議題テーマに、ホームの状況、防災訓練、外部評価の意義や結果などを上げることで、より具体的な意見や協力事項が上げられる場合もある。会議内容や予定を事前に決定し、計画的に会議を開催することで参加予定者の参加率を高め、効率的で効果的な会議の運営を実施できると思われる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホームは家族が訪問しやすいような雰囲気、管理者や職員は常に意見が言いやすい家庭的なホームを心がけている。家族からの要望や意向については、職員で話し合い、改善に取り組んでいる。入居者家族もホーム家族として意見交換を活発に行い、管理者と職員が意思疎通を図って、意見や要望は具体的に運営に反映している。家族面会時は時間をかけて話ができるように会議室などゆっくりと話せる環境で話すように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	職員は近隣住民でもあり、地域の行事や自治会活動などの情報を容易に集めることができる。また、地域特性も理解して、ホームの存在を広く地域に認知させている。日常の中で、近隣住民との挨拶やごみ出し、回覧版の受け渡しなど地域との付き合いが浸透している。ホーム主催の敬老会に地域住民に参加してもらったり、地域行事に入居者が積極的に参加するなど、職員は地域の中で入居者が生活できる基盤を構築している。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりを尊重して、家庭的でその人らしい生活ができるように、職員一人ひとりが地域の中で生活する入居者の人格を尊重し、家庭で過ごしているような状態でいてほしいと理念と基本方針を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや日々の生活の中で理念を共有し、理念に基づくケアが実践できるように管理者と職員は常にコミュニケーションを取っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常の中で、近隣住民との挨拶やごみ出し、回覧版の受け渡しなど地域との付き合いが浸透している。ホーム主催の敬老会に参加してもらったり、地域行事に積極的に参加するなど、入居者と職員は地域の中で生活を楽している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者とユニットリーダーが中心に自己評価を行っている。職員の意見は随時聞いてはいるが、職員が参加しているとまでは言えない。外部評価結果は、誰でも閲覧できるようにリビングに掲示したり、評価の意義や改善項目を運営推進会議をはじめとする各会議で報告しているが、計画的に改善に取り組むまでには至っていない。		今後、自己評価は職員参加で行い、外部評価結果については地域からの意見も取り入れ、計画的に改善に向けての取組みが成されることが期待される。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議参加者との意見交換を重視した会議である。計画的な会議開催が実施されていないため、入居者家族や参加予定者の都合がつかない状況も見受けられた。		運営推進会議は意見交換の場になってはいるが、議題テーマにホームの状況、防災訓練、外部評価の意義や結果などを上げることで、より具体的な意見や協力事項が上げられる場合もある。会議内容や予定を事前に決定し、計画的に会議を開催することで参加予定者の参加率を高め、効率的で効果的な会議が実施できると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から介護相談員を受け入れている。また市担当者に、生活保護や困難事例など相談をしている。市担当者とは、サービスの質の向上が図れるように、様々な情報が得られるような関係になっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族にはちょっとした状態の変化でも、常に報告するように心がけている。家族面会時には、必ず健康状態、ホームの状況、入居者の様子などを報告している。定期的には、金銭管理の報告とともに健康状態やホームの状況を郵送している。また年2回、写真入りの「暮らしの里だより」を送っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は常に家族が訪問しやすく、意見が言いやすい家庭的なホームを心がけている。入居者家族もホーム家族として意見交換を活発に行い、出た意見は運営に反映している。家族面会時は時間をかけて話ができるように努めている。家族の要望や意向については、職員で話し合い、改善に取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	採用時からホームに合った人を見極め、その人の力が活かせる仕事や機会を提供しながら共に成長できるような運営に努めている。職員は管理者と24時間連絡が取れる体制にあり、さらに医療連携、入居者家族との連携などにより、安心して働ける状況にある。定着率の高い事業所である。異動・離職も少ないが、入居者へのダメージがないように職員全員でケアを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに応じた育成を現場で行っている。職員一人ひとりの特性を把握し、個性を引き出し、やりたいことをチャレンジする機会を提供するなど、職員を動機づけている。仕事に慣れてもらうような配慮や仕事の流れの把握、介護スキルの向上などを段階別に職員に合わせて現場で行っている。毎朝のミーティングや定例会議で研修等を実施、仕事への姿勢、感情コントロールなど意識すべきことを伝えている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、同法人が運営する暮らしの里はなみずき苑との連携及び同業者が見学に来るなど、積極的に交流を進めている。また運営者は同業者との交流を行うことでホームの運営に関する情報を収集し、ホームの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して入居できるように、納得いくまでホームの雰囲気に慣れてもらうようになっている。入居前にはホームを見学してもらい、ホームの雰囲気や職員との交流を図るようにしている。体験入居も可能で、本人と家族が納得し、安心できるような配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「人生の先輩として尊敬する」気持ちを大切に、生活の中で起る様々な出来事を楽しむ気持ちを入居者と共有している。炊事、洗濯、掃除など入居者がイキイキと活躍できる場面がある。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から把握に努めている。言葉や表情、行動から本人の意向を汲み取る努力をしている。毎日の申し送り、月1回のミーティングにて情報の共有化を図りケアに生かしている。入居者から意向を引き出すのが難しい場合は家族より情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のスタッフミーティングや3ヶ月に1回の関係者、家族、職員での担当者会議を開催し、意見や気付きを話し合い介護計画に反映させている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回家族、本人、職員の要望、意見を取り入れに直しをしている。また、変化が生じた場合はその都度検討をし見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	オーナーが医師であることもあり本人、家族にとって負担となる入院は避け往診にて対処し、生活を続けることができるように支援している。必要に応じ通院支援している。また、家族の相談にもなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制で適切な医療が受けられる状況である。入居前からのかかりつけ医受診は基本的に家族に対応してもらっている。歯科は訪問歯科を利用している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に誓約書を交わし、重度化、終末期についての話し合いをしている。状態に変化があればその都度家族、本人の気持ちを確認、考慮し職員全員で支援していく体制を整えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の管理、守秘義務は徹底している。入居者のプライドやプライバシーを損なわないように気を配っている。不適切な言動があった場合は、責任者が気がついた時点ですぐに指導している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日のスケジュールはあるが、その日の体調や気持ちを尊重し一人ひとりのペースに合わせている。買い物、散歩等希望に沿った支援をしている。家庭的な雰囲気が出せるように工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はスタッフが各テーブルで入居者と同じ食事を一緒に話しをしながら楽しく摂っている。簡単な下準備、配膳、後片付けは職員と入居者が共に行なっている。近隣から届いた野菜で料理を作ることもある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のペースにあわせ、好きな時間に入浴を楽しめる。体調不良により入浴ができないときは清拭を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴から得意分野を探し、力を発揮してもらっている。畑仕事、調理、ゴミ出し、回覧板を持っていったりと、できることを手伝っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出たり、外でお茶を飲んだり、買い物にも出かけている。外食を楽しむ人もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一瞬の隙に外に出てしまった入居者がおり、鍵をかけることの弊害については理解しているが、入居者の安全を考え、玄関はオートロックにしている。日中の日光浴やお茶の時間には開放している。		鍵をかけないケアが良いことは熟知しており、見守りができる日中は状況に応じて、かけない工夫をしている。外に出てしまう原因、外出先を探り、鍵をかけないケアの実践を検討中とのことであり今後に期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災通報装置、消火器の点検は毎日行なっている。災害に備え非常用食料の準備はしている。避難訓練は年3回行っているが消防署の立会いはない。		平成22年4月には二階からの非常時の避難手段として、ベランダから避難できるように滑り台の設置を予定している。また警察、消防署との連携に努めており、来年度より消防訓練、避難訓練を実施することになっているので、実現が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養を考えた野菜が大目の食事を提供している。職員は入居者の体調を観察しており、おおよその栄養摂取量、水分摂取量を把握している。また、入居者の状態に合わせ刻み食等、柔軟に対応している。		食事を入居者と摂り量の確認はしているが記録がない。確実な摂取量を確認するために記録が望まれる
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には畳の部分があり、こたつが置かれ家庭的な雰囲気がある。玄関、居間、食堂に花が飾られ、安らぎのある空間になっている。台所が居間から見える場所に位置しており調理している音や匂いがして五感に働きかけている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真が持ち込まれており、入居者の生活スタイルに合わせた居室になっている。カーテンは全室防炎を使用している。		